

トルコ・アンカラ留学の

リアルな生活事情

法文学部人文学科4年 厚地 光優

1. とにかく勉強・勉強・勉強！

トルコの中でもアンカラに留学する場合、**トルコ語の習得はほぼ必須**になります。
(生活が不便というだけでなく、周囲からの印象が悪くなってしまうため。
話せないことを面と向かって非難されることも…)

そのため大学+語学学校に通う必要があり、
アンカラ大学附属語学学校はハードなことで有名！
2ヶ月に1回のペースで進級テストが行われ、長期休暇もありません。

また、アンカラ大学では英語で開講される授業がほとんどありません。
トルコ語で行われる授業についていくのがとても大変でした…！！



2度も
誕生日パーティを
開いてもらうことに…！



2. 日本人コミュニティを作れないので…

アンカラには日本人が少ないため
留学でよくある「日本人コミュニティ」が存在しません。
でもだからこそ、留学中には沢山の異文化交流ができました。

特に私は1年間の留学を通して
「**韓国人コミュニティ**」と「**イラン人コミュニティ**」の中で
生活することになり
彼らが「外国人」である私に対しても
分け隔てなく接してくれることにとても救われました。

3. 外は危険がいっぱい！

アンカラの全ての場所が、というわけではありませんが、治安の悪い場所や東洋人の女性を利用しようとする人が…
実際に命の危険を感じる場面にも複数回遭遇し、**危機管理能力の大切さ**を感じました。

現地に馴染むような見た目であること、「日本人」すぎない見た目であることが大切です。

4. トルコは「親日国」？

日本のメディアでよくいわれる「トルコは親日国」という表現。
留学を通じて、これは**半分本当で半分嘘**なのだと感じました。

もちろん日本のことが大好きなトルコの人々もたくさんいますが、そもそも日本という国の存在を知らない人もいます。
また、東洋人に対して差別を行う大学生や街の人々も少なくありません。
「犬を食べるんだらう」と声をかけられたり、私の友人は東洋人という理由で、クラスの中で嫌がらせを受けていました。

とはいえ大多数の人々は、人種や出身地ではなく「今ここで何をしている人なのか」という視線で接してくれます。
トルコに対して**敬意を持って暮らすこと、それを相手に理解してもらえよう振る舞い**が大切だと学びました。



／ 留学中に容姿が激変しました \